

小金井市立本町高齢者在宅サービスセンター
第4回 地域密着型デイサービス運営推進会議 報告書

開催日時	平成30年3月5日(月) 14時30分～15時30分
開催場所	本町高齢者在宅サービスセンター3Fボランティア室
参加者	ご利用者家族 : 利用者ご家族A様 : 利用者ご家族B様 地域住民代表 : 地元商店会代表C様 : ボランティア代表D様 所管包括 : きた地域包括支援センター職員(以下:包括職員) 本町センター職員: センター長 : 認知症デイ担当生活相談員 : 一般型デイ担当生活相談員
司会進行	認知症デイ担当生活相談員
書記	一般型デイ担当生活相談員

【議事録】

1. 開会の挨拶
2. 事業報告 (資料) 平成29年度下半期状況報告
 - (1) 利用率の報告
 - (2) 認知症対応型デイサービスの特徴的な支援と活動
 - ①独居世帯・高齢者世帯や就労介護家族支援
 家族の手が行き届かないケア(清潔整容など)にフォーカスした支援の提供
 - ②ターミナル期にある方、医療ニーズの高い方に対する医療と介護の連携支援
 喀痰の吸引、褥瘡の処置・予防マッサージ・ポジショニング、食形態の見直し・分食
 家族介護者への精神的サポート、緊急時対応マニュアルの作成などについて多職種協働の連携支援を実施。
 - ③小金井市認知症高齢者施策の推進
 小金井市の認知症ケアパス委員、認知症推進委員として当センターの生活相談員が任務にあたり、「認知症安心ガイドブック」の普及啓発などに携わっている。
 - (3) 事例紹介
 - ・重度認知症高齢者の緊急時多職種連携実践ケース
 - (4) 受託事業
 - ・家族介護者教室、家族交流会の活動紹介
 - (5) 認知症高齢者にやさしい街づくりへの取組み(けやき通り商店会)
 - ①「みんなの安心ささえ愛ネット」のご紹介
 - ②「けやき通りの小さなお祭り」(けやき通り de かくれんぼ)
 - ③「小金井市民活動まつり」(市民活動まつり de かくれんぼ)
3. 意見交換

(1) ショートステイの課題と活用方法について

A様：ショートステイを利用したいと思ったことがあるが、ショートステイ利用中はデイサービスを利用できないと知り、ショートステイを断念したことがあった。紹介事例のように日中は通い慣れたデイサービスで過ごし夜間はショートステイというサポートはいいと思った。

→同じ法人だからこそ制度の狭間の課題をフォローするフィッティングサポートを展開できた。しかし、本来はご利用者本人のクオリティオブライフやご家族のニーズをショートステイサービス提供事業所がどう充足するのかという問題である。その点で当法人のショートステイサービスも取り組むべき課題が残されている。

B様：今回初めてショートステイを利用した。ショートステイから帰ってきた父を見たら10歳位老けてしまった感じがしてがっかりした。ショートステイは預かってもらうだけなのか？と感じた。ただ、他方で今回、母も娘である自分たちもゆっくりできた。父がどこかに行ってしまうかと常に心配しているので、それがいい安心感ほかに代えがたい。ショートステイにデメリットがあることも承知しながらお世話になってゆくしかないと感じているところだ。

→ショートステイは在宅で必死に介護している家族介護者にとっては蜜の味のようなサービスと考えている。一旦、施設に預けると、それまでギリギリで頑張っていた緊張の糸がプツンと切れてしまうことも少なくない。そのような場合、帰って来られてまた大変な介護が始まると「もういい加減にしてほしい」と気持ちから虐待のような行為につながることも少なくない。なので、ショートステイを利用する際は、利用するタイミング、日数、頻度などをよく検討し、ご本人には負担をかけず、ご家族には明日の活力になるようケアマネジメントすることが望まれる。

(2) みまもりあいプロジェクトについて

D様：スマホを利用するということがだが、使いこなせない人もいるので浸透させるのが難しいのではないかと。困っている人がいたら直接の声掛けすることが大事だと思う。

→「認知症サポーター養成講座」という市民向け講座があり、認知症高齢者を支えるサポーターが増えつつあるが、そのなかで声掛けの方法や対応を学ぶことが出来る。

→小金井市主催の「お元気サミット」では道に迷っている方への声掛けの方法を学んだ。

→「みまもりあいプロジェクト」の「みまもりあいアプリ」は現代社会に古き良き時代の相互互助社会の再構成をねらいとしてできたもの。独居の方や高齢者世帯を支えるには包括支援センターや地域の専門職たちだけでは支えきれないものがある。専門職と地域の社会資源がどう連携して支え合うことができるか。地域力でカバーしていくことが重要。

B様：外に出てしまった時に、すぐに地域の人たちに気づいてもらえるように目印をつけている。

→認知症高齢者の家族介護者のOBやOGの方たちはこのような様々なノウハウを持っておられる。その体験談は、現役介護者の大きな支えとなるはず。共有できる場をつくってゆくことが必要。

→上手にサービスを使って地域で協力していくことが大切

4. 情報提供（きた地域包括支援センターより）

- 小金井市医療資源マップの紹介
- 介護予防・転倒予防 理学療法士による特別講習会の紹介
- 住宅火災による被害のお知らせ

- 小金井桜まつりの紹介

5. 閉会の挨拶

6. 次回開催予定 平成30年9月10日(月) 14時半～

以上